

 <p>山形県木材産協だより 題字 長谷川六郎</p>	<p>山形県木材産業協同組合 〒990-2473 山形市松栄 1-5-41 TEL.023-666-4800 FAX.023-646-8699 URL:http://www.mokusankyo.jp E-mail:yamawood@mokusankyo.com</p>
--	--

目次	1. 林野庁概算要求の概要!!	4. 再造林 100%!!
	2. 第 6 回地域材利用推進協議会開催!!	5. 地域材利用拡大連携会議
	3. 第 43 回山形県児童木工工作コンクール	11. 8 月住宅着工状況



1 H30 予算概算要求の概要!! (林業成長産業化対策等)

ホームページでも公表されている概算要求の木材産業分を紹介したい。9 月号でも紹介したが、新たなスキームの下で意欲と能力のある経営体に森林の管理運営を集積・集約化する地域を重点的に支援することとしている。**林業成長産業化対策**は 293 億円の規模となった。

(1) 持続的林業確率対策

持続的な林業経営を確立するため、重点的な路網の整備、高性能林業機械の導入、伐倒、集材、搬出、再造林の一貫作業、境界明確化、コンテナ苗生産基盤施設整備等を支援します。

(2) 木材産業等競争力強化対策

意欲と能力のある経営体との連携を前提に、木材製品を安定的・効率的に供給するための木材加工流通施設の整備、木造公共建築物や木質バイオマス利用促進施設等の整備、特用林産施設の整備等を支援します。

次に **JAS 無垢材利用拡大対策**は 5 億円の要求額となっている。木材の需要を拡大するためには、非住宅分野を中心に木造建築の需要を開拓することが急務であることから、品質・性能の確かな JAS 無垢材（人工乾燥機械等級区分製材と 2×4 製材）の活用事業者の拡大実証、設計者の育成を支援します。「JAS 無垢材活用拡大宣言」運動の展開等。JAS 無垢材供給拡大事業としては、JAS 無垢材の供給力向上に直結する製造施設の整備、機械等級区分装置の導入等を優先的に支援します。

また、**建築物の木造・木質化及び木材産業活性化総合対策**は 6 億 5 千万円となっている。

(1) 無垢製材品の利用強化対策 (1 億 1 千万円)

顔の見える木材での快適空間づくりの中で、A材丸太を原材料とする付加価値の高い構造材、内装材、家具、建具等の製品・技術開発や普及啓発等の取組みを支援します。

(2) 新たな生産・加工・流通体制づくり推進対策 (1 億 3 千万円)

需給情報の共有・活用や製材工場等が行う木材加工設備導入や山林の取得等に対する利子助成を行います。また、木材加工施設等のリース導入を支援します。

最後に、**木材需要の創出・輸出力強化総合対策**は 8 億 7 千万円となっている。

(1) 民間部門主導の木造公共建築物等整備推進事業 (4 千万円)

(2) 「地域内エコシステム」構築事業 (3 億 8 千万円)

(3) 高付加価値木材製品輸出促進事業 (1 億円)

(4) 木づかい・森林づくり活動の全国的な展開 (2 億 8 千万円)

(5) 「クリーンウッド」普及促進事業 (5 千万円)

木材関連事業者の登録を促進するため、専門家の派遣やセミナー等の開催、県における合法伐採木材等の流通・利用の促進を目的とした協議会による普及啓発活動を支援します。



2 第 6 回地域材利用推進協議会を開催!!

9 月 6 日 (水)、ホテルキャッスル (山形市) を会場に標記協議会 (阿部昭会長) を開催したところ、委員及びアドバイザーなど 16 名が出席した。

本協議会は、平成 28 年度の国庫補正事業である「地域材利用の木材関係者等への支援対策事業」の実績報告等について、関係業界や行政機関から様々な意見を伺うものであり、前回の事業成果を継承しつつ、特に A 材の利用拡大等について活発な意見交換会となった。

1 月の前年度事業結果の評価・検証を踏まえた意見には、県産 A 材の利用拡大に向けた全国的な発信の強化やモデル展示、さらに設計・施工業界との連携の強化等が総括されており、概ね計画どおりに事業が遂行され、県民に広く普及したと感じたとしている。主な実績は下記のとおりです。



	名称	概要
1	第 5 回地域材利用推進協議会	1 月 19 日、本事業で取り組む内容について、関係団体を構成員とする協議会を開催した。
2	木とすまいの大博覧会への出展	2 月 3～5 日、東京ビッグウイングでの県産木材 PR 関係イベントに出展した。
3	山形空港事務所の内装木質化モデルの展示	空港事務所や県の協力により、内装木質化モデル展示等を実施した。5 月 2 日～
4	日本一さくらんぼ祭りへの出展	6 月 17～18 日、山形市の標記祭りに木工品等で出展した。
5	すまいの耐震住宅博覧会に出展	7 月 8～9 日、仙台市での県産木材 PR イベントに出展した。
6	設計・施工業界を対象とした、木構造設計研修会の開催	8 月 22 日、JAS 等の流通木材の普及促進を図るため、設計・施工業界と連携した構造設計研修会を開催した。
7	第 6 回山形県地域材利用推進協議会の開催	9 月 6 日に開催、事業結果の評価・検証を実施した。

3 第 43 回山形県児童木工工作コンクール審査会

9 月 14 日 (木)、アズ七日町山形市中央公民館 5 階ホールにて第 43 回山形県児童木工工作コンクールの審査会が山形県木材青壮年協議会 (会長 阿部友則) 主催で開催された。夏休み等利用して親子で創意工夫し仕上げた作品 60 点が県内各地から集まった。

審査委員長に、県農林水産部林業振興課課長補佐 (木材産業振興担当) 伊藤信氏、委員に山形森林管理署次長畠山幸樹氏、



山形城南木材市場社長安部雄祐氏、県木材青壮年協議会会長阿部友則氏 (株丸友製材専務)、木産協鈴木専務の計 5 名が審査にあたった。

審査の結果、山形県木材産業協同組合理事長賞には、山形市立東小学校 2 年生鈴木美羽さんが受賞しました。作品名は、「トトロとねこバス」。表彰と作品展示は、10 月 14 日山形県林業まつり会場で行われます。



4 再造林100%を目指して!! (伐ったら植える!!)

背景として、大型集成材工場の稼働等により木材需要が増大しており、今後も木質バイオマス発電施設等の整備計画があることから、さらなる増加が見込まれています。また、昨年 12 月には「やまがた森林ノミクス推進条例」が制定され、木材の安定供給や伐採跡地への再造林等を県民総参加で進めることとしています。さらに、今年 3 月の「やまがた森林ノミクス推進会議」では吉村知事が「再造林 100% 宣言」を行っています。

今年度は、地球温暖化防止や災害防止等の森林の公益的機能維持には、再造林が不可欠で待ったなしの状況であるため、暫定的に造林補助金を県費で 20% 嵩上げし、実質 100% で支援しています。現在は、山形県再造林推進会議（委員：木産協阿部理事長）やワーキング検討会（委員：木産協素材部会 4 名等）において仕組みや制度等を検討しているところです。

現在、各総合支庁での説明会も開催され、行政と事業者が分担して再造林経費を全額支援する新たな制度の構築を目指し、県産木材の取扱量に応じて事業者が協力金を拠出し再造林経費を助成する基金制度の創設が検討されている。これにより、再造林費用が国庫補助金 68%、みどり環境税 12%、県費 10%、事業者 10% で、再造林費用 100% 支援となる計画です。

再造林経費のイメージ図



5 山形県地域材利用拡大連携協議会等開催!!



9 月 15 日 (金) 山形市パレスグランデールにて、全国木材組合連合会事業である「平成 29 年度工務店等と林業・木材加工業の連携による住宅づくり等への支援事業」の事業採択に伴う標記立ち上げ協議会を開催した。本事業は単年度事業で、山形県プレカット協会 (会長：松田賢) を代表とし、やまがた県産木材利用センター (理事長：安部政昭) と山形県広葉樹利用研究会 (代表：會田悦睦) の 3 者で県産木材の普及推進等に取り組む。山形県木材産業協同組合 (理事長：阿部昭) は監事として参画している。

今回は県産木材の普及推進の中でも広葉樹並材 (B 材) 利用を計画の中心に置いている。オール県産材の家づくりを目指すためには、床材・フローリングの開発・製品化が急務となっているが、県内にフローリング工場がないため、やむを得ず県外からの製品が流入している現状です。

そこで、県広葉樹利用研究会と公設試 (森林研究研修センターと工業技術センター) が連携し、県産主要広葉樹の特質等を解明することで無垢のフローリング等試作品を作成し、林業まつり等各種イベント会場での展示やパンフレット配布等普及を目指していくこととしている。

6 林工連携コンソーシアム設立!!

やまがた森林ノミクスの推進のため、林業分野と工業分野 (ものづくり産業) をつなぐ「山形県林工連携コンソーシアム」が 9 月 15 日山形市パレスグランデールにて設立した。当コンソーシアム会長には柴田洋雄山形大学名誉教授が選出された。会員には、素材生産を担う森林組合や木材産業、建築、工業の関係団体と金融、大学、県などの産学官金の 76 団体等で構成し、研修会の開催や情報共有、交流を図ることとしている。木産協組合員からも約 10 団体が参画した。当日は設立記念講演会も開催され、



日本製紙研究開発本部の河崎雅行 CNF 研究所長がセルロースナノファイバーについて量産化と展開戦略について基調講演を行った。CNF (セルロースナノファイバー) は、パルプ繊維をナノサイズまで細かくした新素材で、強度が高く熱にも強く大きな注目を集めている。

7 木産協関連の大会・研修・会議等計画

	研修名称	内容(未定のものあり)	時期
1	全国木材連合会臨時総会 (東京)	H30 年度予算概算要求説明、支部情報交換	10. 4
2	原木増産対策会議 (山形市)	県産木材 (B 材) の緊急増産対策、意見交換	10. 10
3	第 27 回山形県林業まつり (天童市 県総合運動公園内)	青空木工教室、J A S 材・合法木材等展示、プレカット軸組展示、広葉樹床・壁材展示等	10. 14 ~15
4	鶴岡バイオマス協議会 (酒田市)	バイオマスホフ酒田お披露目会、協議会	10. 18
5	置賜林業改善資金運営協議会	種苗生産業者、金融、行政、木産協等委員	10. 18
6	地方創生トップセミナー (仙台)	日本木造耐火建築協会林野庁長官、長門市長	10. 18
7	今井前林野庁長官講演会 (山形)	講演「山形県の農林業に期待するもの」	10. 23
8	全国木材産業振興大会 (奈良市)	木材産業功労者表彰 (全木連会長賞：柴田氏)	11. 9

8 林野庁「森林バンク」創設へ

林野庁は管理放棄されたスギ等の人工林を整備するため、「森林バンク」制度を創設する意向で、市町村が対象森林を借り上げて集約し、意欲のある林業経営者に貸し出す制度のようだ。

原案では、森林所有者には木を植えて育てる責務があると明確にしたうえで、自ら管理できない場合は市町村に委ねることを促していく。市町村は事業規模を拡大したい林業経営者に伐採などを委託していく。林道・作業道の整備や高性能林業機械等の導入などは国が支援していく仕組みのようだ。また、急傾斜地や奥地等林道から離れているなどで採算が取れず、伐採の引き受け手が見つかり難い森林は市町村が無料で借りて管理していく計画だ。

財源は政府与党が検討している「森林環境税」(仮称)でまかなう案が浮上しているようだ。

9 協和木材(株)木材チップ工場建設へ

協和木材(株)(東京:佐川広興社長)は、新庄中核工業団地の工場北東側の 1.8ha の新用地を取得し、26 日新庄市と環境保全に関する協定を結んだ。燃料用の木材チップ工場として 11 月に着工予定で、来年の 4 月の稼働を目指している。

鉄骨平屋約 1 千㎡の建屋で、投資額は約 2 億 6 千万円。月 2 千 t を製造し、5 人ほどの新規雇用を見込んでいる。

10 日本百名山(山形県に 6 座)シリーズ紹介

蔵王山

豊富な湯量を誇る温泉に国内有数の規模を誇るスキー場を持つ蔵王山。その呼称をめぐる「『ぞおうざん』ではなく、『ぞおうさん』にしてほしい」という請願が山形市議会 6 月定例会に提案されました。山形と宮城にまたがる「蔵王山」は 1 つの山の固有の名称ではなく、



不忘山、熊野岳、刈田岳、雁戸山など蔵王連峰の総称で、主峰は山形県側に位置する熊野岳(1,841m)。ちなみに、蔵王連峰の名前は、蔵王権現を祀ったことに由来しています。地質的には、玄武岩、安山岩からなる成層火山群の活火山であり、常時観測対象の 47 火山に含まれています。火口湖の御釜や噴気口が見られ(いずれも宮城県側)、火山の恩恵である温泉が両県の裾野に数多く存在し、スキー場も登山道も多く設置されています。歴史的負の遺産では、太平洋戦争終結直前の 1945 年 3 月 10 日に、アメリカ軍の B29 が 3 機続けて不忘山に墜落し搭乗員が全員死亡する事故が起き、事故から 16 年後には山頂付近に追悼碑が建立されている。登山コースは、刈田岳から山頂(50 分)、地藏岳から山頂(60 分)の軽登山から、笹谷峠発～雁戸山(北蔵王)～熊野～刈田岳～不忘山(南蔵王)までの縦走コース(1泊2日)などがお薦めです。



地藏までのロープウェイは往復 2,600 円、山形駅～蔵王温泉駅バス代金往復 2,000 円です。7 月頃高山植物の女王「コマクサ」が山頂周辺で見ることができます。近年、山頂駅周辺でトウヒツヅリヒメハマキ等の食害を受けてアオモリトドマツが枯死する被害が発生しています。数年後、冬の蔵王の風物詩である樹氷に影響が出る可能性があります。

11 8 月期の住宅着工状況

平成 29 年 8 月期の県内新設住宅着工戸数は 561 戸となり、対前月比 106.3%、対前年同月比 114.3%と好調だった昨年度を上回っている。地域別では鶴岡市・酒田地区内が前月比を大きく上回っている。お盆休みを返上する勢いであった。

1 県内新設住宅着工戸数(平成 29 年 8 月)

(単位:戸)

年月	総数	利用関係別				資金別		木造住宅		木造内訳		
		持家	貸家	給与住宅	分譲住宅	民間	その他	戸数	木造率	在来軸組	プレハブ	2×4
23 年	4,336	3,001	1,100	8	227	3,903	333	3,615	83.4%	2,778	121	716
24 年	4,716	3,086	1,273	61	296	4,468	248	3,917	83.1%	2,940	156	821
25 年	5,323	3,543	1,372	21	387	5,136	187	4,515	84.8%	3,453	152	910
26 年	4,550	2,529	1,505	83	437	4,335	215	3,797	83.4%	2,752	106	939
27 年	5,403	3,076	1,721	15	591	5,338	65	4,575	84.7%	3,138	130	1,307
28 年	5,675	3,046	1,930	16	683	5,592	83	4,875	85.9%	3,370	109	1,396
8 月	491	288	171	2	30	472	19	430	87.6%	272	11	147
28.1~8	3,543	2,073	1,030	10	430	3,482	61	3,098	87.4%	2,153	79	866
9 月	501	249	205	2	45	501	0	440	87.8%	289	8	143
10 月	652	252	329	2	69	645	7	526	80.7%	348	6	172
11 月	515	256	173	0	86	509	6	414	80.4%	298	9	107
12 月	464	216	193	2	53	455	9	397	85.6%	282	7	108
29.1 月	243	144	69	1	29	243	0	207	85.2%	164	4	39
2 月	282	164	74	1	43	279	3	257	91.1%	153	8	96
3 月	310	193	61	13	43	308	2	275	88.7%	210	8	57
4 月	566	277	169	0	120	564	2	471	83.2%	331	13	127
5 月	348	249	36	25	38	345	3	321	92.2%	267	1	53
6 月	647	320	266	0	61	637	10	520	80.4%	325	8	187
7 月	528	322	152	3	51	527	1	489	92.6%	371	12	106
8 月	561	284	225	1	51	548	13	483	86.1%	358	13	112
対前月比	106.3%	88.2%	148.0%	33.3%	100.0%	104.0%	1300.0%	98.8%	-	96.5%	108.3%	105.7%
対前年同月比	114.3%	98.6%	131.6%	50.0%	170.0%	116.1%	68.4%	112.3%	-	131.6%	118.2%	76.2%
28.1~当月計	3,543	2,073	1,030	10	430	3,482	61	3,098	87.4%	2,153	79	866
29.1~当月計	3,485	1,953	1,052	44	436	3,451	34	3,023	86.7%	2,179	67	777
対累計前年比	98.4%	94.2%	102.1%	440.0%	101.4%	99.1%	55.7%	97.6%	-	101.2%	84.8%	89.7%

2 地域別新設住宅着工戸数(平成 29 年 8 月)

(単位:戸)

市町村	着工数	累計	前年比	累計比	木造累計
県計	561	3,485	114.3%	98.4%	3,023
山形市	154	882	129.4%	98.4%	731
上山市	6	62	60.0%	98.4%	60
天童市	33	303	137.5%	118.4%	242
山辺町	3	38	23.1%	59.4%	36
中山町	12	25	400.0%	64.1%	25
東南村山	208	1,310	123.1%	99.4%	1,094
寒河江市	43	180	215.0%	120.8%	143
河北町	10	46	35.7%	63.9%	44
西川町	6	9	-	300.0%	9
朝日町	0	2	-	28.6%	2
大江町	3	18	150.0%	100.0%	17
西村山郡	62	255	124.0%	102.4%	215
村山市	13	42	650.0%	87.5%	40
東根市	37	320	51.4%	97.0%	311
尾花沢市	4	48	200.0%	137.1%	48
大石田町	1	24	100.0%	400.0%	22
北村山	55	434	71.4%	103.6%	421
村山地域	325	1,999	109.8%	100.7%	1,730
新庄市	7	79	70.0%	74.5%	75
金山町	0	1	-	-	1
最上町	0	11	0.0%	34.4%	9
舟形町	1	5	-	166.7%	5
真室川町	0	11	0.0%	68.8%	11
大蔵村	1	2	-	100.0%	2
鮭川村	6	8	-	400.0%	8
戸沢村	2	4	200.0%	200.0%	3
最上地域	17	121	58.6%	74.2%	114
米沢市	34	355	85.0%	133.5%	237
南陽市	22	139	169.2%	120.9%	137
高島町	5	40	83.3%	51.3%	40
川西町	3	22	50.0%	61.1%	21
東南置賜	64	556	98.5%	112.3%	435
長井市	5	63	62.5%	98.4%	60
小国町	1	8	100.0%	114.3%	8
白鷹町	3	24	60.0%	85.7%	23
飯豊町	0	8	0.0%	80.0%	8
西置賜	9	103	60.0%	94.5%	99
置賜地域	73	659	91.3%	109.1%	534
鶴岡市	85	329	293.1%	95.4%	301
三川町	1	14	100.0%	60.9%	13
庄内町	5	35	100.0%	68.6%	34
田川	91	378	260.0%	90.2%	348
酒田市	53	315	106.0%	87.5%	286
遊佐町	2	13	200.0%	118.2%	11
飽海	55	328	107.8%	88.4%	297
庄内地域	146	706	169.8%	89.4%	645

注:累計は平成 29 年 1 月~

